

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 113 回

『「継続は力なり」 ～ 「時代を読む 具眼の士」 ～』

2022年6月11日ハイブリッド形式『メデイカル・カフェ in 菊名』（画像1）で講演の機会が与えられた。講演では【『社会をよく見て、「がん」から学んだものを生かす = 社会性(ソシアリティ)(新渡戸稲造:1862-1933の精神)、『勝海舟の屋敷があった赤坂で、講演に呼ばれた。『勝海舟:1823-1899の胆力～がん哲学外来の心得～』は時代的要請となろう。母を亡くして悩んでいるクララに対して、勝海舟の奥さん(たみ)の言葉;『悲しい時には私達の所へいらっしやい、一緒に泣きましょう、そしてあなたが仕合せな時には一緒に笑いましょう。さあ勇気をお出しなさい、—これから先の長い年月のことは考えず、今日という日以外には日がないと思ってただ毎日をお過ごしなさい』は、「訪れる人を温かく迎え入れる」原点でもあろう。】と語った。zoomと対面での個人面談後、平林知河 牧師の司会のもとで参加者の質問を受けた。雑誌の編集部の方も見学に来られていた。大変、有意義な貴重なひと時となった。

筆者が代表を務める南原繁(1899-1974)研究会から、『南原繁における学問と政治』（発行：横濱大氣堂）が届いた（画像2）。筆者は、『まえがき』で、【本書は、2021年11月3日に学士会館で開かれた第18回南原繁シンポジウムの講演等の記録を中心に、その他 東京大学ホームカミングデーの南原セミナーの講演、2021年8月末に開かれた第10回夏期研究発表会で報告された論文などを収めた本であります。南原シンポジウムは、2004年に第1回が始まり、継続は力なりと言いますが、本年は第18回でした。南原繁は、このコロナの時代に生きておられれば、どのような発言をされたであろうかと興味があります。——南原繁が東大総長時代の法学部と医学部の学生であった2人の恩師から、南原繁の風貌、人となりを直接うかがうことが出来ました。南原繁は、「高度な専門知識と幅広い教養」を兼ね備えている人物であり、「視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、教養を深め、時代を読む 具眼の士」でありました。これまで学んできた南原繁の言葉は、まさに「言葉の処方箋」となって、私に迫りま

す。——】と記述した。

「人生邂逅は、人知・思いを超えて進展する」ことを痛感する日々である。

一般社団法人 がん哲学外来 共催

メディカル・ カフェin菊名

樋野興夫先生 特別講演会 オンライン開催のお知らせ

樋野興夫先生の特別講演とグループミーティングがあります。グループミーティングと並行して、樋野先生による個人面談も行ないます。

樋野先生からのメッセージ

人間の真価は
幸せな時ではなく、
困難な時にこそ発揮されます。
メディカル・カフェは、
さまざまな人たちがつながる素晴らしい場所です。
寄り添い合う時間を過ごしましょう。



日時／6月11日(土)

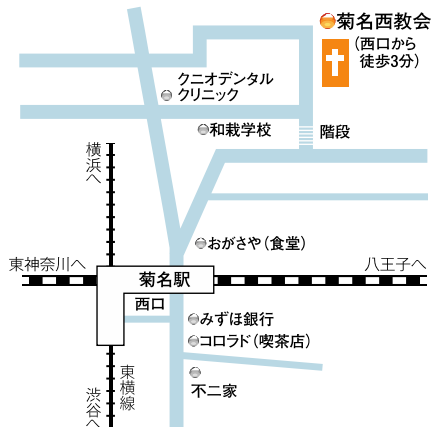
午後2時～4時

会場／zoom会議室(参加無料)&
菊名西教会会堂



皆さまの「ご来訪」を
心からお待ちしております。

Zoomカフェはご体調の優れない方、遠方におられる方、あるいは外出先などからも参加いただける、新型コロナウイルス感染の心配がない集まりです。



- 新型コロナウイルス感染予防のため、原則オンライン (zoom) 開催となりますが、オンライン環境がないなどのご事情がある場合は、教会会堂にて参加することも可能です。樋野先生は来訪され、会堂から参加されることになります。
- 参加のお申し込み・お問い合わせは下記、菊名西教会に電話、E-mail でお願います。のちほど返信メールにて zoom ミーティングの URL と ID をお送りします。
- お申し込みの際、参加の方式についてお知らせください。A= zoom B=来会 (教会)
- 個人面談をご希望の方は、その旨と参加方式をお伝えください。人数に限り (3~4名程度) がありますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。
- zoom はパソコンやスマートフォン、タブレットで簡単にご利用できます。

日本長老教会 菊名西教会

〒222-0021 横浜市港北区篠原北1-3-22
電話：045-433-5275 E-mail: kwc@nifty.com
HP: <http://kwc.life.coocan.jp/index.html>



ISBN978-4-9908848-9-5

C0030 ¥2200E



定価： 本体 2,200円 + 税

南原繁における学問と政治

南原繁における学問と政治



南原繁研究会編

南原政治哲学における学問的射程とその意義

東京大学社会科学研究所副所長・教授 宇野 重規

ポスト福祉国家を考える — 南原繁の言葉を導き星にして —

東京大学名誉教授 神野 直彦

発行 横濱大氣堂

南原繁研究会編

TAIKIDO



南原 繁 1889-1974 (明治22-昭和49)

政治学者。1889年香川県生まれ。1914年東京帝国大学を卒業して内務省に入ったが、21年母校の助教授となり、25年教授に昇進し、主として政治学史を担当した。一高時代新渡戸稲造校長の薫陶を受け、大学時代から内村鑑三によってキリスト教の信仰に導かれた。ドイツ理想主義哲学の独創的研究を中心に政治の哲学的研究を進め、それを通じて国体という擬似宗教を批判し、その成果を『国家と宗教』(1942)、『フィヒネの政治哲学』(1959)にまとめた。45年法学部長に就任して同志と終戦工作を試み、敗戦のあと総長に選ばれて6年間在職。その間学内の演説は広く紹介されて、敗戦後の国民に大きな影響を与えた。また46年貴族院議員となって憲法審議に加わり、47年教育刷新委員会委員長となって戦後教育改革に指導的役割を果たした。49年ワシントンで全面講和を主張。72年より『南原繁著作集』(全10巻)を刊行。70年日本学士院長。74年逝去。